

線量管理について

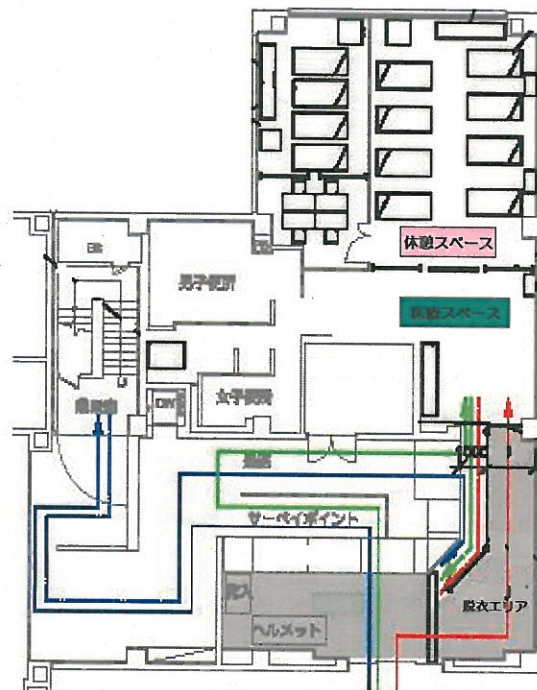
	当初	現状	今後
個人線量計の台数	当初320台(1Fのみ) 4月初旬:約1490台 (1F:約920、J:約570)	現時点で使用可能な台数 4000台 (1F:約2900、J:約1100)	1F用として約8800台を発注済み。 今後、順次、納入開始。
個人線量計の運用	代表者に装着させて全体を評価する手法を採用	4月1日以降、全員へ装着。	現状の運用を継続
個人線量管理システム	ノートへの手書きによる記録。 その後、エクセルによる記録へ変更(3月15日)	作業員証発行、簡易入退域装置の導入(4月14日)	入退域管理システムの構築
個人線量計の貸出	保安班の机にて貸出。 その後、保安班机近傍に個人線量計貸出エリアを設置。	免震棟入口脇に個人線量計貸出所を設置。	入退域管理システムの構築に併せ、Jビレッジとの運用も考慮した最適な貸出所を設定。
内部被ばく線量評価	登録センターが被災し、WBC使用不可。 免震内設置のWBCもBGが高く、使用不可。 その後、JAEAより車載型WBCの貸与を受け、小名浜CCにWBC測定開始。	広野町サッカー場(Jビレッジ近傍)にWBCセンターを設置。 現状、車載型1台、新規1台、2Fから移設した1台の計3台にて稼働中。 その他JAEAより貸与を受けたWBC1台(車載型)が関東で稼働中	8月:1Fから3台移設予定。 (8/1 2台稼働予定) 10月:6台の新規購入予定。 年内:電力から1台譲渡予定。 (関東の車載は返却予定)

－5/6号救急医療室の開設－

①名称	5/6号サービス建屋1階救急医療室（呼称、5/6号救急医療室）
②役割	〇熱中症、心筋梗塞等の救急医療を必要とする患者に対し、初期治療を実施 〇重症患者の場合には、後方医療機関への搬送の要否を判断
③対象者	全ての東京電力社員、協力会社社員
④期間	7月1日～9月末日（7月上旬は試行期間）
⑤体制	<24時間滞在> ・医師（緊急被ばく医療に詳しい救急科専門医を中心に）1名 ・本店厚生班1名 ※放射線管理専門家、看護師の配置についても検討 <バックアップ> ・1F医療班 ・1F保安班 ※急患発生時、5/6号救急医療室に急行し対応
⑥設備	医療スペース、休憩スペース(ベッド8台)
⑦機材	救急カート、外傷縫合セット、酸素ボンベ、ベッドサイドモニター、点滴器材、薬剤 等



場 所：福島第一原子力発電所 5/6号サービス建屋1階救急医療室
医療スペース（手前側）・休憩スペース（奥側）



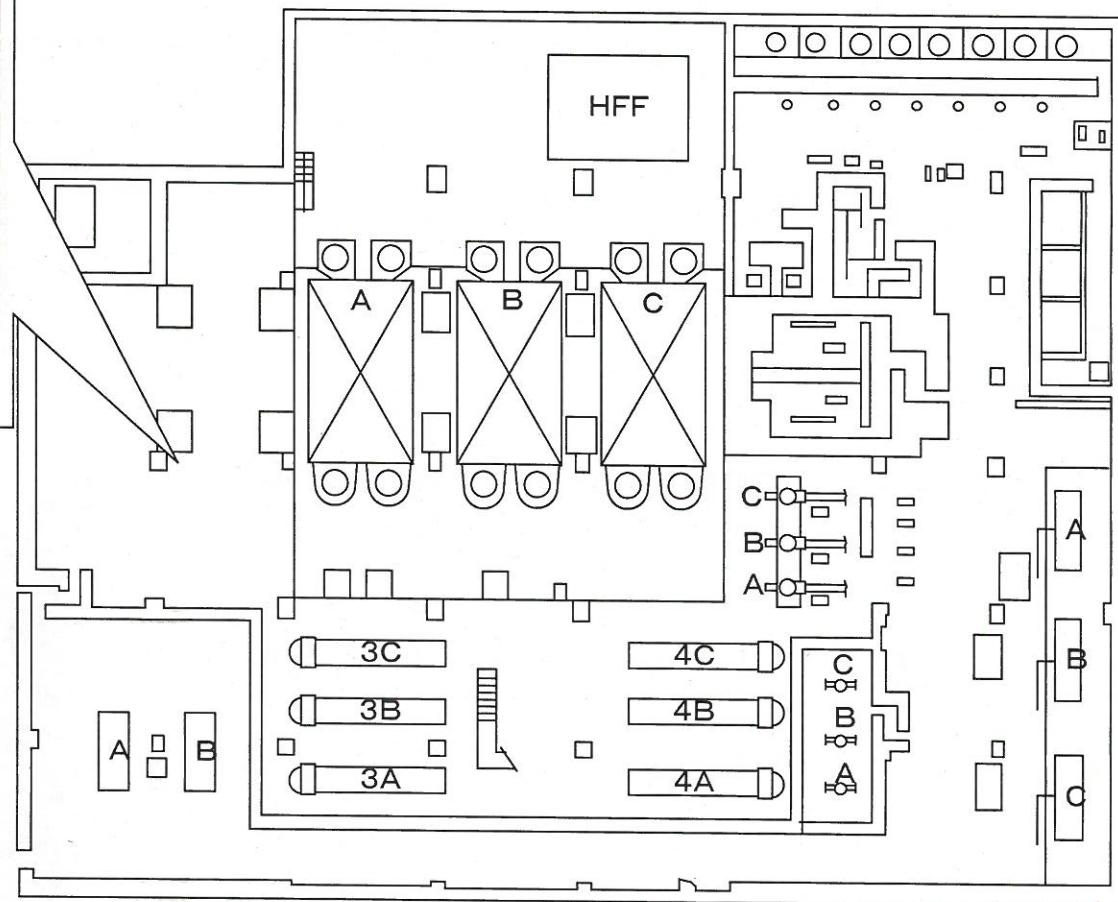
5/6号サービス建屋
1階救急医療室設置
レイアウト



場 所：福島第一原子力発電所 5/6号サービス建屋1階救急医療室
事務スペース



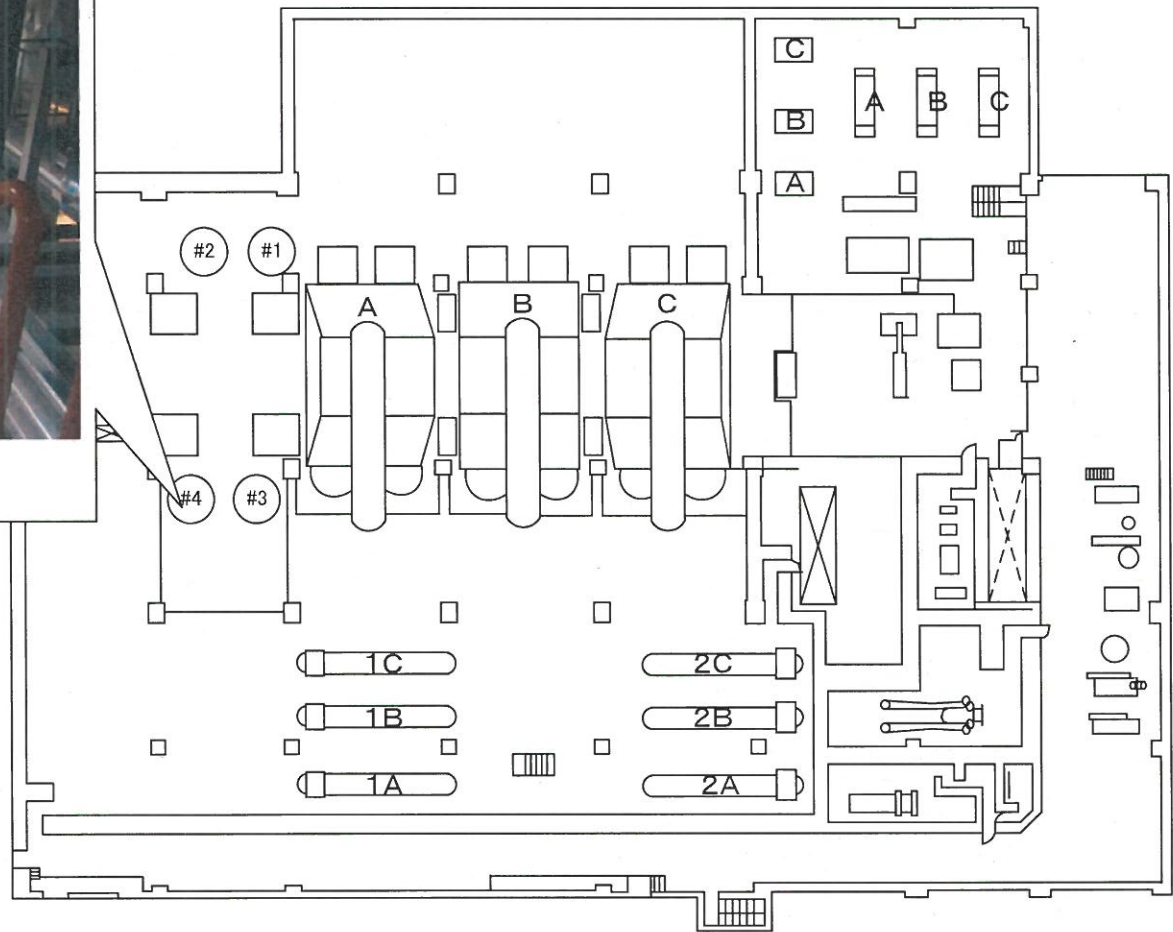
湿分分離器 下部フロア



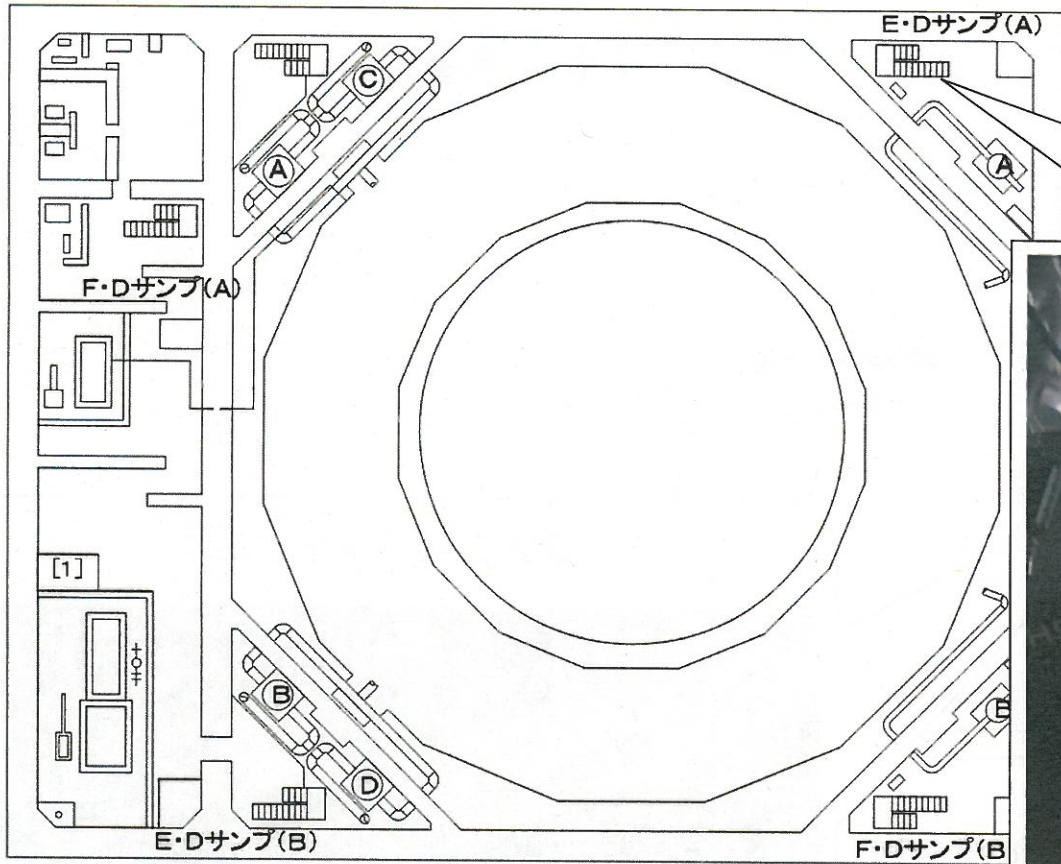
福島第一原子力発電所5号機 タービン建屋地下



湿分分離器底部



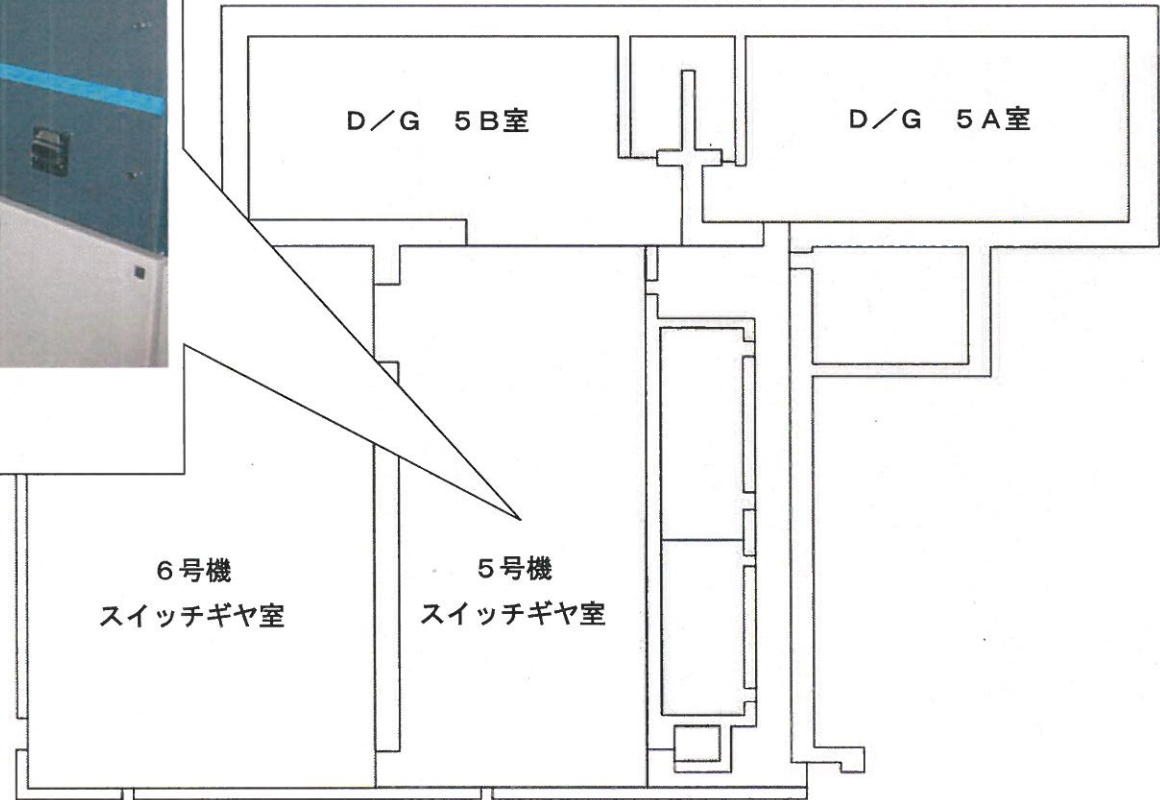
福島第一原子力発電所5号機 タービン建屋1階



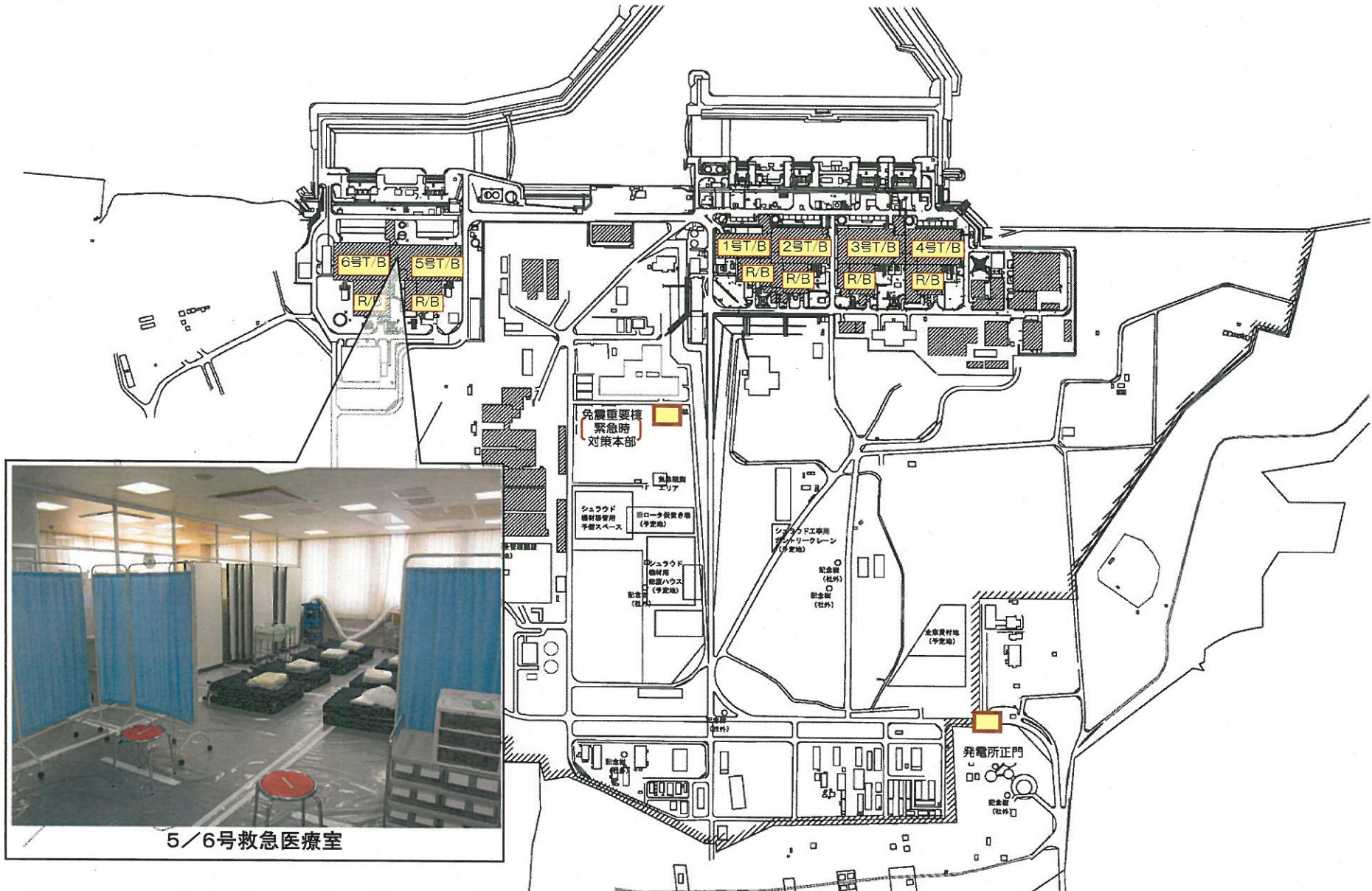
福島第一原子力発電所5号機 原子炉建屋地下



6.9kV スイッチギア室

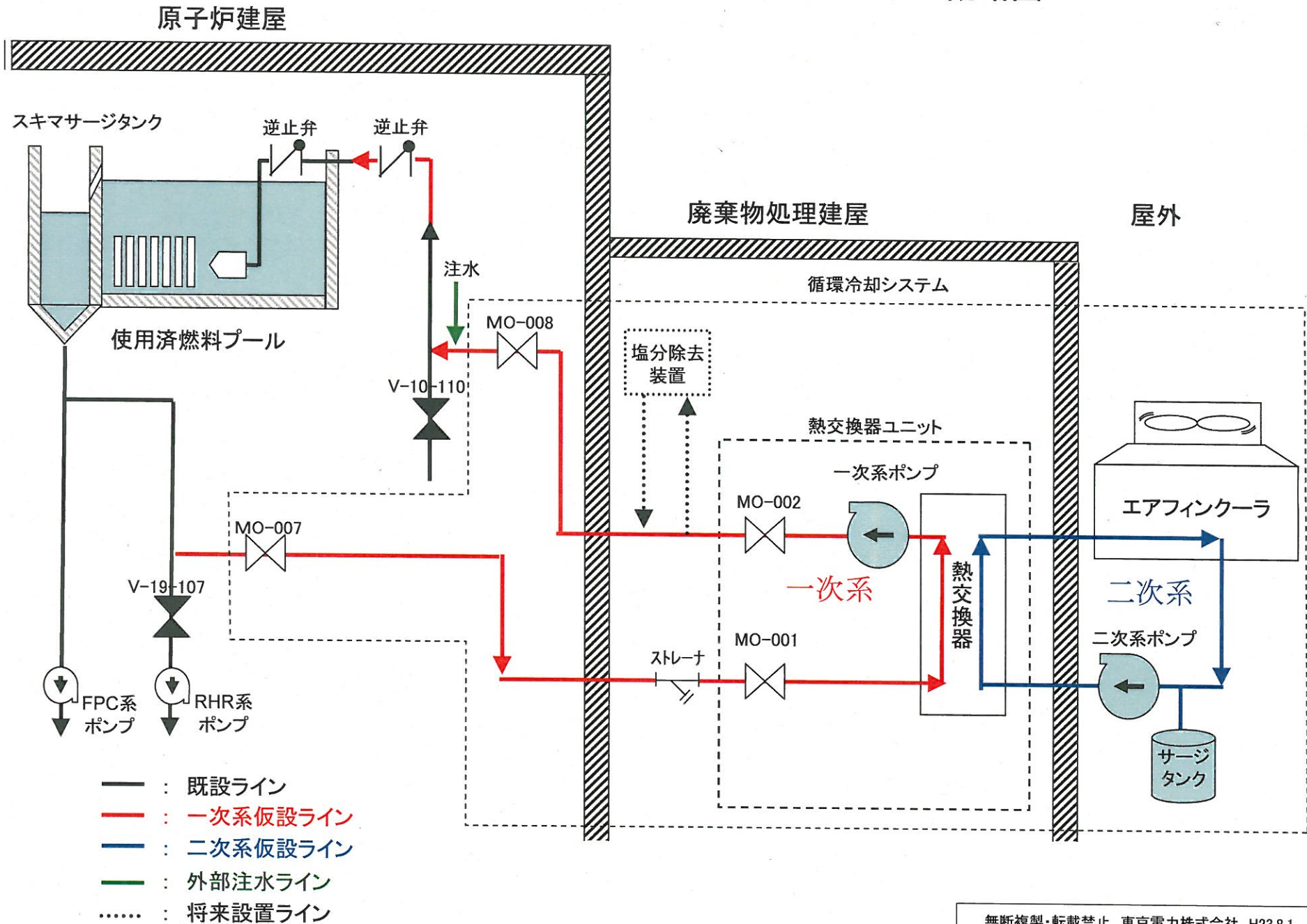


福島第一原子力発電所 5号機 サービス建屋地下

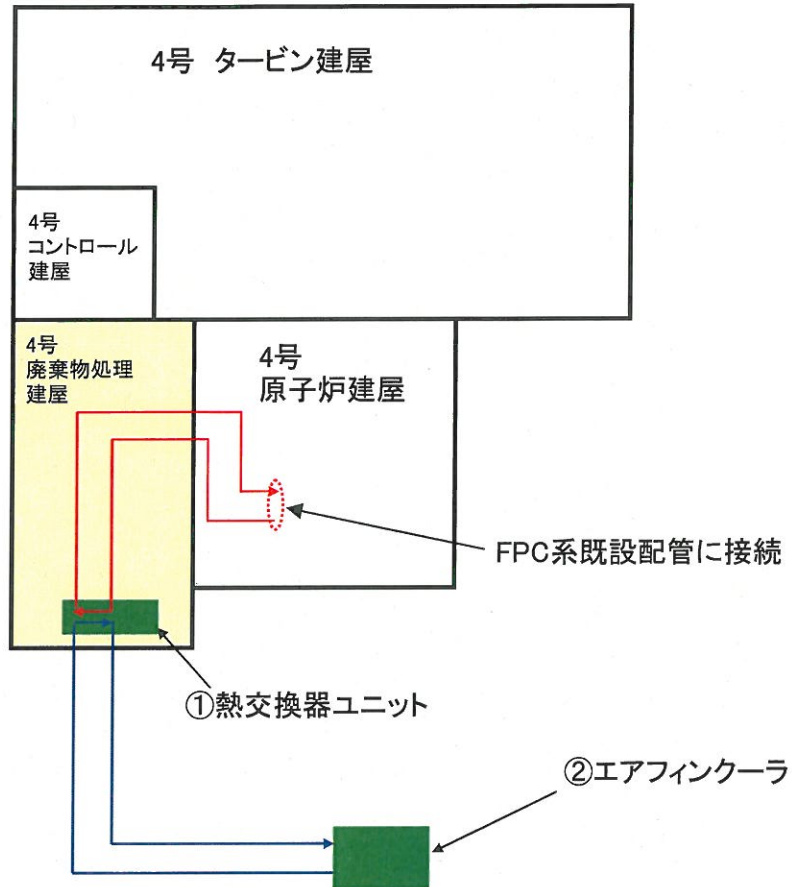


福島第一原子力発電所5号機 サービス建屋1階

4号機使用済燃料プール循環冷却システム概略図

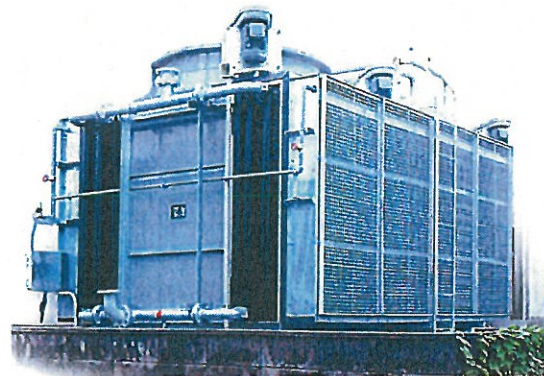
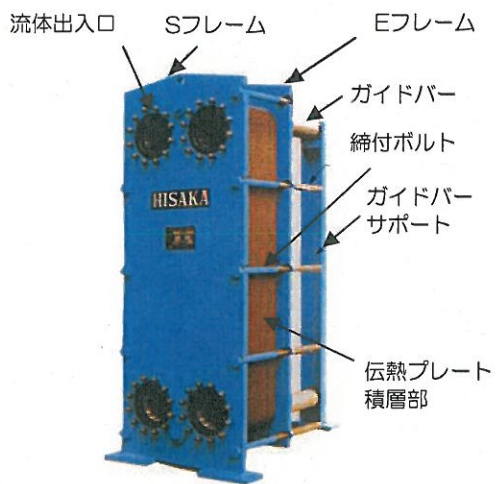


4号機使用済燃料プール循環冷却システム配置計画図



①熱交換器ユニット内における熱交換器概略図

②エアフィンクーラ概略図



福島第一構内 サーベイマップ(平成23年7月25日~27日測定分)

平成23年7月25日~27日測定
 測定者: 坂本、吉田、酒井、谷本、谷平
 研倉、渡辺、澤上、神谷、菅野
 単位: mSv/h
 PS-24
 測定部位: 胸部

